



十郎翁の父、為八翁は昭和4年、86歳で亡くなった。

水道や道路、港湾が整備され始めたもの頃である。新しい時代の足音は、十郎の住む小さな村にもはつきりと聞こえていたに違いない。

- 明治22年 豊州鉄道株式会社設立。
- 同30年9月、行橋〜長洲（現・柳ヶ浦）間44・7kmが開通。
- 26年 長洲銀行、27年、柳ヶ浦銀行設立。
- 29年 豊州電気鉄道株式会社設立。
- 43年 宇佐電気株式会社が設立。宇佐地方に初めて電灯がともる。
- 44年 豊州ガス会社が開業。
- 45年 日出生鉄道株式会社（後の豊州鉄道）が創立。

末宗十郎は明治21年8月18日、宇佐郡北馬城村大字和気字中尾（現・宇佐市和気）に、父・為八、母・チヨの長男として生まれた。十郎の少年時代、明治の半ばから後半にかけては、九州の一地方にも文明の波が押し寄せた時期と重なる。

十郎の少年期

〜進む近代化のなかで〜

創業〜終戦

創業〜終戦までの末宗組・末宗家の主な出来事

- 明治21年 末宗十郎生まれる
- 大正元年 末宗組創設
- 8年 末宗庄市生まれる
- 10年 末宗組本屋新築
- 13年 末宗八郎生まれる
- 15年 末宗睦男生まれる
- 昭和14年 末宗庄市召集
- 19年 現在地に本社移転

主な工事（年月は着工時期）

昭和4年〔ニューヨーク株式会社大暴落、世界恐慌始まる〕

- 1月 小松橋修繕、大仏橋・飯田橋架設
- 2月 日豊線西屋敷立石間道床改良
津民橋架け替え
- 10月 飯岩橋架け替え

昭和5年〔金解禁〕

- 6月 駅館川柳ヶ浦河岸修繕
- 10月 片倉製糸宇佐製糸所建築

昭和6年〔満州事変〕

- 2月 宇佐競馬場新設
- 12月 県道二日市御越線（津房地区）改良

昭和7年〔宇佐神宮大造営始まる〕

- 1月 県道山辺下郷線改良
- 10月 県道二日市御越線（津房地区）トンネル掘削

昭和8年〔日本、国際連盟脱退〕

- 3月 県道二日市御越線（津房地区）災害復旧
- 4月 北馬城村馬城農業倉庫建築（及び9年）
- 6月 県立中津商業高校（第2期）建築
- 7月 県道中津日田線（下郷地区）改良
- 12月 広瀬井堰（長洲）改良

昭和9年〔大分市に初のデパート開店/久大線全線開通〕

- 3月 宇佐町農業倉庫建築
- 9月 柳ヶ浦海岸災害復旧
- 11月 国境橋架け替え

昭和10年〔宇佐参宮自動車創立〕

- 1月 県道立石竹田津線（田染地区）改良
- 3月 日豊線宇佐駅待避線新設
- 4月 国道3号線（宇佐地区）改良
- 12月 千丈橋、田染橋架け替え

昭和11年〔2・26事件〕

- 1月 高森井堰工事
県道二日市御越線（南端地区）改良
- 2月 浦田井堰工事
- 5月 立石町役場・小学校建築

大正元年8月1日、個人経営の土木建築請負業・製材業「末宗組」を設立。十郎が24歳になる直前のことだ。

大正年間の工事記録は残されていない。しかし、大正2年の日出生鉄道の着工、同4年の宇佐参宮線の着工、さらに大正8年の道路法公布に伴う県道整備事業の大幅な増加、あるいは耕地整理や土地改良の奨励により農業土木が盛んになるなど、時代は追い風を吹かせていた。創業から10年で十郎は末宗組本屋を新築している。

新本屋は寄深川の左岸、猫間橋のふもとにあった。美しい二連の石橋の向こうに、立派な構えの本屋が写った写真が残っている。広い敷地内には、母屋や事務所、倉庫、製材所などがあったという。



寄深川にかかっていた猫間橋。向こうに末宗組の本屋が見える。（大正10年頃）

平成10年に発行された『大分県建設業協会50年史』によると、大分県内で建設業が企業体として台頭してきたのは、鉄道や道路、農業水路など大規模な建設工事の始まった明治30年代から40年代ではないかと言われている。そして、「その創業の状況を見ると、県外で技術を身に付けて帰ってきて創業した場合と、県内にいて中央大手の建設会社の下請けで鉄道建設工事などを通じて技術や経営ノウハウを身に付けて独立した場合などに分けることができる」とある。どうやら十郎は後者であったようだ。

昭和39年に有志の手によって建設された「末宗十郎翁之像銘文」には「父祖の志を継ぎ、土木建築の業に従ふ」とある。恐らく進む近代化の一端を担うべく土木請負業のような仕事に従事した父・為八を手伝う形で、十郎も少年時から土木の道に入ったのであろう。

創業10年で末宗組本屋新築

父祖の志を継ぎて

主な工事（年月は着工時期）

昭和12年（日中戦争始まる）

- 3月 県道臼杵佐伯線（臼杵地区）改良
下里良橋架け替え
- 10月 宇佐神宮若宮社等石垣・塙改修
- 11月 日出家政女学校建築

昭和13年（国家総動員法公布）

- 3月 真玉小学校新築
- 4月 北馬城村農業倉庫新築
- 6月 県立別府高等女学校新築
- 8月 寄藻橋架け替え
- 10月 津房橋架け替え

昭和14年（宇佐航空隊開設 / 第二次世界大戦勃発）

- 1月 県道高田国東線（朝来地区）改良
- 3月 傷痍軍人別府温泉療養所建築
- 11月 県道佐伯臼杵線（津久見地区）改良
宇佐神宮参道階段改築、南楼門前広場
- 12月 片倉製糸宇佐製糸所乾燥場改築

昭和15年（隣保班実施 / 日独伊三国同盟 / 大政翼賛会発足）

- 3月 宇佐神宮宿衛舎等新築
- 5月 宇佐神宮本殿回廊等
- 10月 呉臨営 261号ノ内 50号
（終戦までに航空隊関連の工事は計50件近く）
- 11月 宇佐神宮西大門修理、脇門・塙改築
国道3号線寄藻橋架設

昭和16年（太平洋戦争始まる / 県下に暴風雨）

- 1月 神武天皇菟狹記念碑建設
熊本師団長洲憲兵分遣隊庁舎・官舎建築
- 2月 宇佐神宮神宮庁増築・神門
- 3月 別府高等女学校同窓会館家庭寮新築
- 7月 日豊線宇佐駅本屋増築
- 9月 萬徳寺庫裏新築

昭和17年（翼賛総選挙実施 / 関門トンネル開通）

- 1月 日豊線犬丸川・庄川橋梁改良
- 3月 片倉工場社宅新築他
- 9月 柳ヶ浦町街路・水路築造
- 10月 県教員保養所新築



昭和27年、寄藻川の改良工事（上）と、呉橋の架け替え工事（下）。

この時期の橋の架け替えは、自動車交通の発達や災害への強化から、それまでの木造橋を当時の最新技術である鉄筋コンクリート橋に改築するというものだった。末宗組はその

昭和4年

駅館川の小松橋、修繕。安心院の大仏橋、飯田橋、架設。県道津民八屋

線の津民橋、架け替え。県道小森小国線の甌岩橋、架け替え

9年 県道二日市御越線（現・別府院内線）の国境橋、架け替え

10年 県道日田小国線の千丈橋、県道杵築高田線の田染橋、架け替え

12年 院内町下恵良橋、架け替え

13年 宇佐市寄藻橋、架け替え。安心院町津房橋、架け替え

15年 宇佐市寄藻川、架設

昭和初期には台頭

（橋で技術力を見せる）

大正5年に初枝と結婚、8年には後継ぎとなる庄市が誕生、そして本屋新築と、順風満帆な船出をした末宗組は、昭和に入ってから橋の架け替え、道路の改良、トンネル掘削、海岸・河岸の復旧、学校や役場、農業倉庫の建築など、仕事の幅を広げながら順調に業績を伸ばしたようだ。特に、橋の架け替えの多さは目を引く。



創業4年目にして、当時の県下主要河川の一つ、小松川の修繕工事を任せられた。

主な工事（年月は着工時期）

昭和 18 年（台風県下で猛威 / 学徒出陣）

- 3月 日出町庁舎新築
横山国民学校南校舎改築
- 4月 日豊線築城駅拡張
- 5月 大分食糧営団新築
- 6月 土地開発営団宇佐郡佐田共同宿舍新築
- 9月 宇佐参宮鉄道水害復旧

昭和 19 年（学童疎開始まる）

- 1月 南院内国民学校・役場改築
日本医療団別府契健康一部改築
- 2月 国道 3 号線（北馬城地区）災害復旧
御許川堤防復旧
- 4月 宇佐青年学校移転新築
- 8月 県立宇佐中学校改築
県道中津長洲線改良
- 11月 九州電気工業日出工場カーバイト電気炉建設
- 12月 宇佐航空隊滑走路敷地造成等（終戦までに 13 件）

昭和 20 年（宇佐大空襲 / 終戦）

- 9月 大分味噌醸造株式会社の塩田工事

昭和 21 年（占領軍大分新駐 / 戦後初の総選挙 / 日本国憲法公布）

- 2月 日豊線豊前善光寺駅構内改良
神栄実業高田製糸工場設備復活
- 4月 豊州鉄道善光寺橋樑観音間の樑架修繕
- 5月 日豊線柳ヶ浦駅機関車給炭設備・砂利線
日出国民学校修繕
- 6月 占領軍別府地区兵舎・宿舍新築（5 社協定）
- 11月 大分交通豊後高田自動車庫建築

昭和 22 年（新憲法施行 / 学校教育 6・3・3 制実施）

- 9月 奇瀬川改修
北馬城農業会移転改造
- 11月 北馬城村役場増築、什器製作
- 12月 日豊線柳ヶ浦機関庫トロンビット改造

最新技術をこの頃すでに確立していたことになる。創業からわずか4年目に、大分川の舞鶴橋、広瀬橋、山国川の山国橋と並ぶ県内の主要橋梁の一つである小松橋の修繕を任されていることから、末宗組の技術力の確かさが窺える。小松橋はその後、昭和14年の架け替え工事でも末宗組が行っている。

この時期はまた、小学校や高校の校舎、農業倉庫といった大きな建造物も多く手がけている。なかでも昭和5年の片倉製糸宇佐製糸所の建設は意味深い。

明治から昭和初期にかけて養蚕・製糸業は主要な産業だった。小さな家内業だったものが、やがて近代的工場へと発展し、地域経済に大きな影響を及ぼすようになる。宇佐は大分県内でもとりわけ製糸業の発展した地で、大正9年創業の片倉製糸宇佐製糸所は、明治35年に創立された豊中製糸株式会社柳ヶ浦分工場とともに、宇佐の蚕糸業を牽引していた。つまり末宗組はトップ企業の建築を請け負ったのである。昭和5年の事務所建築に続いて14年に乾燥場、17年に社宅の建築。末宗組にとって初めての「大仕事」と言える。



昭和 20 年頃の工事は、「安全第一」ではなく「危険防止」だった。

主な工事（年月は着工時期）

昭和 23 年（第 1 回国民体育大会）

- 1 月 日豊線庄川橋修繕
- 2 月 北馬城小学校校舎修繕
- 4 月 県高田土木出張所改築
- 6 月 柳ヶ浦実業高校被災復旧
- 7 月 宇佐、西部甲、佐田等中学校工事
- 8 月 宇佐区検庁舎建設
- 9 月 宇佐町警察署建築
- 11 月 藤原中学校建築
- 12 月 県営平田井堰用水路改良他（以降、各年）

昭和 24 年（ドッジライン公表 / デラ台風襲来）

- 1 月 四日市町警察署建築
- 真玉中学校新築
- 2 月 北馬城中学校新築
- 日豊線柳ヶ浦機関庫・付属建物新築。配線変更
- 日豊線豊前長洲、柳ヶ浦、西屋敷各駅関連
- 4 月 宇佐中学校新築
- 寄瀧川堤防復旧、改修等（以降、各年）

昭和 25 年（朝鮮戦争勃発 / キジヤ台風襲来）

- 1 月 下田橋架け替え
- 3 月 宇佐高校本館新築
- 大分郵便局倉庫建設
- 6 月 熊本鉄道郵便局大分係員事務室火災復旧
- 10 月 猿渡橋架け替え
- 白山中学校新築、橋の建設
- 津房川堤防復旧（以降、各年）

昭和 26 年（対日講和条約調印 / ルース台風襲来）

- 2 月 宇佐養老院新築
- 3 月 柳ヶ浦海岸堤防復旧ほか 45 件（以降、各年）
- 北馬城郵便局新築

昭和 27 年（血のメーデー / 日米行政協定調印）

- 1 月 津房川防災工事
- 日豊線柳ヶ浦豊前長洲間法面災害復旧
- 2 月 日豊線宇佐西屋敷間路盤災害復旧
- 5 月 上実科高等女学院新築
- 9 月 宇佐高校特別教室新築
- 11 月 高田港改修

田嶋は十郎と同じ北馬城村の生まれ。先に挙げた鉄筋コンクリート橋への架け替え工事に全面的に関わった。昭和 21 年には息子・友則も入社。舗装を担当するなど、父子二代にわたり末宗組に尽くした。

松本も同じく北馬城村生まれ。末宗組の建築技術の向上に寄与した人で、学校や傷痍軍人別府療養所など、いわゆる大工事を多く取り仕切った。また社寺建築という特殊な技術を要する宇佐神宮の本殿回廊などを担当したのも松本だ。

本多は和間村の生まれで、十郎の甥にあたる。児玉同様 15 歳という若さで末宗組に入った。田嶋の息子・友則も子どもの頃から父親について現場に行っていたというから、本多も小さな時分から現場に慣れ親しんでいたのかもしれない。「土木屋として生まれたような男」と評され、土木については天賦の才があったという。橋の架け替えに力量を発揮。また高田港や長洲港の改修では、豊前海を知り尽くしている漁業従事者を多く雇い、その知識を活用して船を使う港湾工事に独特の工法を開発した。

昭和 22 年の株式会社への改組で、松本は専務に、田嶋は常務に就任。本多は昭和 30 年に



旧大野郡の下田橋架け替え工事。（昭和 25 年）

金融恐慌や満州事変などが起こり、社会情勢が不安定だった昭和初期に、前述のような各種工事を行い漸次業績を伸ばしていった末宗組。恐らくこの時期に末宗組の企業としての基盤もできたに違いない。そして、その大きな要因の一つとなったのが、後に「末宗組の四天王」と呼ばれた人たち、児玉巖、田嶋潜、松本荒治、そして本多芳松の相次ぐ入社だ。

児玉は南海部郡上浦町の生まれ。豊後土工（ぶんごどっこ）と呼ばれる優秀な土木業者を数多く輩出したことで有名な土地だ。若くして末宗組に入社し、道路の建設、河川の改修、そしてトンネル工事といった土木部門で活躍、末宗組の技術力向上に寄与した。

“四天王”と呼ばれた人たち

↳ 技術者の系譜は彼らから始まった

主な工事（年月は着工時期）

昭和 28 年（県下大水害 / テレビ本格放送開始）

- 1月 北馬城小学校改修
- 2月 日米行政協定道路（現・国道 387 号線）改良
- 4月 安心院高校定時制南院内分校建築
- 7月 日足川堤防復旧
- 9月 宇佐産業技術指導所新築
- 12月 戦川砂防堰堤工事（以降、各年）

昭和 29 年（宇佐地方町村合併開始 / 自衛隊発足）

- 1月 馬城中学校増築、整地
大山・鎌手地区災害復旧（以降、各年）
- 2月 県道森長洲線舗装新設
橋津橋架設
玄川橋架け替え
- 5月 駅館川河岸復旧
- 11月 岩崎橋架け替え

昭和 30 年（日本、ガット加盟 / 木下郁知事の登場）

- 1月 日豊線西屋敷立石間災害復旧
高田港改修
- 2月 県営封戸干拓堤防
- 8月 豊後高田市内アスファルト舗装
- 9月 宇佐町庁舎新築
- 12月 竜王橋架け替え

昭和 31 年（好景気到来 / 占領軍、別府から引揚げ / 日本、国連連合加盟）

- 2月 深見川砂防工事（以降、各年）
- 6月 天神橋新設
- 10月 日田・小島地区災害復旧
- 11月 大分交通安心院営業所建築
中津地区国道改良
- 12月 長洲漁港修築（以降、各年）

昭和 32 年（南極昭和基地観測開始 / 5 千円札と百円硬貨登場）

- 5月 中津地区国道改良
- 6月 自衛隊玖珠部隊新設の進入路その他
宇佐神宮下宮参道新設
- 7月 宇佐高校体育館新築
- 9月 九州電工柳ヶ浦出張所新築
県道長洲玖珠線（駅川地区）舗装新設
- 10月 宇佐地区国道舗装
- 12月 宇佐参宮線向野川橋改築

土木建築業初の組合設立に尽力

〜他が失敗して投げだしても〜

昭和 10 年くらいまでの間に末宗組の基盤ができたと考えられる根拠の一つに、昭和 12 年 3 月の土木建築業組合連合会の設立がある。

これは、組合員の親睦や連絡、事業改善、官庁の諮問答申、陳情などを目的とし、併せて業界全体の資質向上や正当な受注、さらに悪質業者の排除のために作られたもので、同年 1 月に公布された大分県令第 1 号土木建築請負業取締規則に基づいて市郡単位で設立準備が進められた。十郎はその 13 の郡市組合のうち宇佐郡組合の代表者として名を連ね、設立後は常任理事になっている。加えて言えば、発足式に際しての寄付金 100 円も、当時



由布岳崩壊により、昭和 28 年、戦川砂防ダム工事に着工。



良橋の架け替えて障頭指揮をとる木下芳松。

土木部長となったが、49 年、鉄道での工事中に足場から転落して負傷、第一線から退いた。また児玉は昭和 10 年に内務省の直営工場に出身。そこでさらに高度の技術を修めて、28 年に末宗組に復帰。由布岳の崩落を食い止めるための戦川の砂防堰堤を完成させる上で大きな力となった。

彼らは十郎から庄市の時代にかけて活躍、会社を支えた。4 人の下で鍛えられた人たちが次の現場監督になり、その人たちがまた次の技術者を育てるといふ連鎖とした繋がりを保ちながら末宗組は今日に至っている。

主な工事（年月は着工時期）

昭和 33 年（岩戸景気始まる）

- 1 月 県道久留米別府線（植樹祭道路）舗装新設
長洲町公営住宅新築
- 3 月 宇佐町道標津高森線新設、改良
- 4 月 宇佐地区国道舗装
- 6 月 宇佐中学校新築
- 9 月 三隅川・日隈地区掘削・護岸
- 11 月 日出地区国道改良

昭和 34 年（大分臨海工業地帯起工式 / 皇太子、正田美智子さん
と結婚 / 伊勢湾台風、死者五千人超）

- 1 月 広瀬水路の鳥越トンネル工事
- 5 月 国道 10 号線舗装、補修
- 8 月 宇佐神宮相摸場天蓋新築
- 10 月 駅館小学校建築
宇佐精神病院建築
- 11 月 防衛庁十文字原射撃場新設

昭和 35 年（60 年安保 / 所得倍増計画始まる /
カラーテレビ本放送開始）

- 2 月 宇佐神宮参拝者休憩所新築
- 3 月 院内村庁舎新築
四日市町集会所建築
- 6 月 県道長洲玖珠線舗装新設
- 7 月 都市計画街路事業による舗装新設
- 8 月 寒水崩壊地復旧
- 10 月 三栄高会（宇佐）給油所新設
- 12 月 封戸小学校（宇佐）講堂建築

昭和 36 年（人類初宇宙飛行 / 県下に集中豪雨、電線埋没）

- 1 月 山香町母子健康センター新築
- 2 月 宗近中学校（杵築）新築
津房中学校（安心院）増築
高田中学校増設
- 3 月 日出高校山香分校新築
- 4 月 大神中学校（日出）増築
- 8 月 長洲中学校新築
- 10 月 大分銀行宇佐支店新築



ることなく請け負った。
このころ建設業界では、価格統制
令や物資の統制による挙国一致体制
の必要から、商工省が15年7月に法
的根拠（工業組合法）に基づく新組
織設立の指令を各県に発布したのを
受け、大分県でも法に基づく大分県
土木建築工業組合の設立を準備、翌
16年3月に設立された。しかし17年
6月の企業整備令の発表で、大分県
内でも企業合同が進められ、19年4
月、大分県土木建築工業会は解消、
九州土木建築統制組合大分支部が組

戦時の統制下を生き残る 〜大手4社の1社として〜



県議時代の末宗十郎。

の県内大手5指に入るものだった。その頃
の末宗組の業界における位置が窺える。
それはまた、親分肌だったという十郎の気
質も表していると言える。消防組頭から村議
会議員（3期）を務め、のち昭和22年には県
議会議員へと進出した十郎にとって、業界の
ために尽くすこと、地域のために尽くすこと
は自分の使命との思いがあったのであろう。
現社長の庄太郎は言う。「他の業者が失敗し
て投げだしたり引き受けられないような仕事も、
それが地域のためになると分かると採算を
度外視して、どんな仕事でも引き受け、きれ
いに仕上げた」。そんな十郎だからこそ、一
部の悪質な業者の排除や、土木建築事業者の
地位向上に対する意欲は強かったに違いない。

順調に業績を伸ばしていく中、昭和14年に長男・庄市が召集。16年には太平洋戦争が勃
発、世の中は戦時色一色になっていく。当然、建設関係の仕事は減少するが、そのなかで
も末宗組は確かな技術力と地元での信用・実績を認められ、航空隊関連の工事（昭和15年か
ら終戦までにおよそ40件）をはじめ、熊本師団長洲憲兵分遣隊庁舎・宿舎建築（昭和16年）、
宇佐航空隊滑走路の敷地造成（昭和19年）など、軍関係のものを多く手がける。また一方
で、災害復旧や道路改良、学校や役場庁舎、保養所、社宅など、比較的大きな工事も途切れ

主な工事（年月は着工時期）

昭和 37 年〔新産都建設促進法公布 / 新県庁舎事務開始〕

- 1月 宗近中学校本館新築
日豊線中山香杵築間災害復旧
宇佐町生活改善センター新築
- 2月 四日市町中央公民館新築
- 4月 金山橋架設下部工事
- 5月 宇佐神宮宮司住宅改築
- 6月 吉広川護岸復旧

昭和 38 年〔大分地区新産都指定内定 / 県下大雪害〕

- 2月 大神中学校新築
- 7月 長洲玖珠線舗装新設（及び 39 年）
- 8月 県営日出生井路
- 11月 宇佐町総合体育館新築

昭和 39 年〔東海道新幹線営業開始 / 東京オリンピック開催 / 九州横断道路開通〕

- 1月 国東志和利川護岸復旧
- 6月 長洲玖珠線舗装新設
- 10月 尾永井猿渡線改良
宇佐神宮長洲線改良

昭和 40 年〔ベトナム戦争激化 / 中国で文化大革命始まる / 県下に冷害〕

- 5月 南宇佐地区国道舗装
- 6月 県農業技術センター本館新築
- 7月 山香農業高校新築
- 8月 大分交通豊後高田バスターミナル新築
- 9月 住宅公団県職員共同住宅新築
- 10月 釜ノ口砂防堰堤
- 12月 豊前善光寺山本線舗装

昭和 41 年〔大分国体開催 / 県下集中豪雨被害〕

- 1月 宇佐農協事務所新築
- 10月 県普及員研修館新築
県内水面漁業試験場水槽工事



軍陣時代の末宗庄市と、庄市が愛機ライカで撮影した戦地の様子。（53～54 頁）戦地の臨場感とともに、庄市の写真の腕前の確かさが伝わってくる。

末宗組は厳しい戦時下もたくましく乗り切った。そしてこの年、本社を現在地に移転している。
終戦から半年経った昭和 21 年 4 月、南方戦線へ派遣された庄市が、やせ細って復員、その後 3 か月に及ぶ療養生活を送ることになる。



織され、県内の土木建築業者はその支部の下に土木事務所ごとに、大分土建、別府土建、臼津土建、宇佐土建など各地域別の土建会社 12 社と、年間売上高 50 万円以上の大手 4 社の計 16 社に整理統合されることになる。大手 4 社とは、梅林土建、後藤組、溝口組、そして末宗組だった。（大分県建設業協会 50 年史）より）単独の企業体として残るだけの仕事を持っていたという証だ。